

## 日本生殖看護学会ニュースレター

Japanese Society of Fertility Nursing (JSFN)

No.31

## 目次

10周年を迎えるにあたって.....	1
続報：東日本大震災における看護支援を考える：東日本大震災を体験して.....	2
第10回日本生殖看護学会学術集会のご案内.....	3
平成24年度研究助成のお知らせ.....	4
これから行われる学術集会・研修会情報（2012年4月～9月）.....	5
勉強会の支援.....	5
関西地区勉強会報告.....	6
理事会報告.....	6
もし不妊看護の現場で行き詰まったら.....	7
不妊症看護認定看護師リレー寄稿 No.11.....	7
新理事および監事選挙のお知らせ.....	8
事務局からのお知らせ.....	8
編集後記.....	8



## 10周年を迎えるにあたって

日本生殖看護学会理事長 森 明子

2003年、およそ100名余りの会員が集まって発足した本学会が、今年10周年を迎えることになりました。会員は300名余りに増え、日本各地で生殖看護に専門的にたずさわる看護師の数も増え、生殖看護の認知度も徐々に広がってまいりました。生殖看護の実践家・教育者・研究者の交流を促進し、学術的發展に寄与することにより、個人及び家族の生涯にわたる健康と福祉に貢献するという本学会の目的は今後も変わることはなく、社会情勢の変化、生殖医療技術の進展にともない、リプロダクションにおける支援のニーズはますます拡大してきているといえます。

次の10年に向けて、さらに発展するための種まきとなるように、記念事業を行いたいと考えています。私たちは何をすべきなのか、原点に立ち還り、思考する機会となり、次のステップへの行動の糸口をつかみ、共有できることを願っています。記念事業に際し、会員の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

## ◇◇◇続報：東日本大震災における看護支援を考える◇◇◇

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、東日本に激しい揺れと太平洋沿岸に大きな津波被害をもたらしました。その時現場で何が起こっていたのか、学会として何ができたのかを会員の皆様にお知らせすべく、ニュースレター No.29に「特集：東日本大震災を体験して」を組み、東日本大震災の経験談、本学会の取り組みを紹介させていただきました。それから1年近く経過した今号では、東北大学病院で不妊症看護認定看護師として働く高橋恵美子さんに、震災を体験した患者さんの声を交えて看護への思いを語っていただきました。これを機に、改めて看護として何をすべきか考えるヒントになっていただけたら幸いです。（文責：野澤）

### ●●●東日本大震災を体験して●●●

東北大学病院 高橋 恵美子

私は不妊症看護認定看護師1期生の高橋恵美子です。

生殖看護学会においては、震災後早々に被災地の人々にむけて不妊相談を立ち上げて下さいましたこと、大変感謝しています。不妊に悩む人々にとっては勿論ですが、震災の混乱の中で思うように看護ができない状況にあった私たちにとって、皆様からの応援はとてありがたく心強いものでした。

皆様もご存じのとおり、平成23年3月11日14時46分、マグニチュード9.0、最大震度7.0の東日本大震災が発生しました。街中が停電になり、信号も灯りもすべて消え、ライフライン全てが絶たれました。当院では自家発電で辛うじて電気だけはつきましたが、水道も暖房もストップしました。さらに悪いことに3月とは思えないほど寒く冷え込み、強い余震は数分おきに起こり、電話も携帯もメールも繋がらず家族や友人達の安否も確認できない状況でしたので、私たちの不安はどんどん高まっていきました。津波の被害が甚大だった地域とは3日間全く連絡がとれず、壊滅的地域からの母体搬送が始まったのは3月14日になってからでした。当院産婦人科としては、がん患者の治療延期および希望者には県外の病院を紹介し、不妊外来は5月まで休診にして被災地支援にあたりました。

不妊外来を再開してから私が伺った患者の実際の声をご紹介します。震災後5か月経って受診された方は「震災後、体外受精をする気になれませんでした。マンシヨンのすぐ目の前まで水が迫ってきました。生活も気持ちもやっと落ち着いてきたので、治療を再開したいと思います。」と、津波の被害に遭われた方は「津波に流されて、翌日救助されました。目の前で人が亡くなっていくのが辛かった。こうやって治療に来れるのも生きていればこそだと思います。」と、また別の方は「両親が行方不明です。不妊治療は両親も望んでいたことなので続けたいと思います。」とお話になりました。

また、当院では平成16年から毎週木曜日に宮城県不妊専門相談センター事業を担っていますが、震災後1週目はセンター開設以来初めて相談業務を中止し、2週目から再開しました。初回相談利用があったのは、震災後7週経ってからでした。

今回の経験から、被災地の人々は普段の生活に近い状態になってから自分の気持ちに向き合うことができ、それからようやく不妊治療についても考えられるようになることが多い、ということが分かりました。また、「死ぬかもしれない」という経験や、一瞬にして大切なものを失って悲しみが大きい場合、不妊治療にかける思いが以前にもまして強くなることもあると言えます。悲嘆のプロセスから推測すると、今後強く複雑な悲嘆と抑うつを示す患者が出てくると考えられます。当事者が思いを話せるようになったときに受け止められるよう支援を続けることが必要です。今後ともぜひ皆様の力をお貸し下さい。よろしく願いいたします。

## 第10回日本生殖看護学会学術集会のご案内

－第三者の関わる生殖医療における看護師の役割－

2012年9月9日（日）開催 国際医療福祉大学小田原キャンパス

会長 清水 清美

わが国では、精子提供による非配偶者間の人工授精は60年以上の歴史があります。また、昨今では、卵子提供による生殖技術を求めて海外へ渡航するカップルもでてきました。しかし、本技術は倫理的問題を含み、国としての指針が定まらない中、医療者は手探りの状態で不妊カップルや生まれた人に向き合うことが余儀なくされています。そこで今回の学術集会では、「第三者の関わる生殖医療における看護師の役割」をメインテーマとしました。海外やわが国における、第三者の関わる生殖医療の実態を理解すると共に、看護における課題を明らかにし、この技術で生まれた子どもの福祉および家族づくりの視点をふまえた支援について検討したいと思います。

### ▽プログラム

8:55-9:00	オリエンテーション	
9:00-9:30	総会（会員対象）	
9:35-10:00	会長講演「わが国における第三者の関わる生殖医療の実態」	国際医療福祉大学 清水清美
10:05-11:15	教育講演「海外における第三者の関わる生殖医療の実態」	演者：Petra Thorn（ドイツ不妊カウンセラー）
11:20-12:20	一般演題（口演）	
12:30-13:20	昼食（ランチョンセミナー予定）・休憩	
13:30-14:30	一般演題（口演・ポスター）	ティーブレイク
14:40-16:45	シンポジウム「第三者の関わる生殖医療における看護師の役割」	
	シンポジスト	
	医師の立場から	
	カウンセラーの立場から	
	不妊当事者の立場から	
	生まれた人の立場から	
	看護師の立場から	

### ▽参加申し込み方法

郵便振込にてお手続き下さい。事前申し込みは8月10日（金）までです。

#### <学術集会参加費>

事前申し込み：会員5,000円、非会員6,000円、学生（大学院生・研修生は除く）1,000円

当日参加：会員6,000円、非会員7,000円、学生（大学院生・研修生は除く）2,000円

<振込先>郵便振替：普通口座 00260-0-85319 口座名称 第10回日本生殖看護学会学術集会

加入者払込・払出店 小田原城山

### ▽一般演題・ポスターのお申し込み方法

申し込みはメールでのエントリーとします。演題申し込みは5月10日必着、演題抄録締切りは5月31日必着です。用紙はHPからダウンロードできます。

### ▽問い合わせ

第10回日本生殖看護学会学術集会事務局（担当：堀金幸栄）

〒250-8588 神奈川県小田原市城山1-2-25 国際医療福祉大学内 FAX 0465-21-6647

学術集会 HP アドレス：<http://jsfn10th.jp/>

学術集会専用 e-mail：[jsfn10@iuhw.ac.jp](mailto:jsfn10@iuhw.ac.jp)

## 平成24年度研究助成のお知らせ

会員の皆様の研究活動支援として、研究助成制度を設けています。

詳細および申請書類につきましては学会ホームページ (<http://jsin.umin.jp>) をご参照下さい。

皆様のご応募を心よりお待ちしております。

### 研究助成募集要項

#### 【研究助成の趣旨】

生殖看護の実践に関する調査・研究を支援するために、会員を対象とし、研究費を助成し、生殖看護の発展を図ることを目的とする。

#### 【助成の対象】

個人又は共同の研究者を対象とする。

#### 【応募資格】

1. 研究代表者は会員であって、会員歴2年以上である者。
2. 共同研究者は、申請時に本学会会員である者。

#### 【助成金】

研究助成金は研究計画一編につき10万円を限度とし、当該年度の研究助成は2件までとする。

#### 【研究助成期間】

平成24年9月1日～平成25年8月31日までの1年間とする。

#### 【応募方法】

1. 学会所定の研究助成申請書に必要事項を記載し、2部（正1部、副1部）を下記担当者宛に「研究助成申請書類在中」と朱書きし、書留で送付する。申請書類は返却しない。
2. 応募受付期間：平成24年4月1日（日）～6月30日（土）

#### 【選考及び助成の決定】

研究助成審査会において選考審査の上、平成24年8月下旬に応募者に文書で通知する。選考に関する問い合わせには応じられない。

#### 【助成金の使途】

研究活動に必要な物品費、旅費、通信・運搬費、印刷費などを含む。

#### 【研究成果の報告】

1. 助成を受けた者は、研究が終了後、その結果を理事長に報告する。
2. 研究成果は2年以内に日本生殖看護学会で発表し、さらに日本生殖看護学会誌に投稿する。
3. 研究成果を他に発表する場合には、日本生殖看護学会の研究助成を受けたことを明記する。

<お問い合わせ・申請書類送り先>

長岡 由紀子（将来検討委員）

茨城県立医療大学 保健医療学部 看護学科

〒300-0394 茨城県稲敷郡阿見町阿見4669-2

Tel: 029-840-2136 E-mail: nagaoka@ipu.ac.jp



## ◎◎これから行われる学術集会・研修会情報 (2012年4月～9月)◎◎

月	日	学会・研修会名	会場	学会 HP 及び運営事務局
2012年 4月	13日～15日	日本産科婦人科学会 (第64回) 「夢 いだき 集え 若人」	神戸ポートピアホテル / 神戸国際展示場 (神戸市)	<a href="http://www.jsog.or.jp/">http://www.jsog.or.jp/</a> (株)MA コンベンションコンサルティング E-mail : info@macc.jp
5月	1日・2日	日本助産学会 (第26回) 「助産力を高める! -実践から生まれ、実践を育てる教育・研究-」	札幌コンベンションセンター (札幌市)	<a href="http://square.umin.ac.jp/jam/">http://square.umin.ac.jp/jam/</a> (株)コンベンションリンクージ E-mail : jam2012@c-linkage.co.jp
6月	8日	日本不妊カウンセリング学会 (第11回) 「不妊と遺伝のつながり」	ニッショーホール (東京都港区)	<a href="http://www.jsinf.com">http://www.jsinf.com</a>
	8日～10日	日本遺伝カウンセリング学会 (第36回) 「遺伝子医療革命の時代を迎えて」	信州大学医学部付属病院 外来棟4F (長野県松本市)	<a href="http://www.jsgc.jp/">http://www.jsgc.jp/</a> 信州大学医学部附属病院遺伝子診療部 E-mail : jsgc36@shinshu-u.ac.jp
	16日・17日	日本保健医療行動科学会 (第27回) 「新たな全人的チーム医療への挑戦 -がんと震災をめぐる-」	じゅうろくプラザ (岐阜市文化産業交流センター) (岐阜市)	<a href="http://jahbs.info/">http://jahbs.info/</a> 岐阜医療科学大学保健科学部看護学科 守本研究室 E-mail : gakkai@u-gifu-ms.ac.jp
7月	1日～4日	ヨーロッパ生殖医学会 : ESHRE (第28回)	イスタンブール (トルコ)	<a href="http://www.eshre.com/">http://www.eshre.com/</a> ESHRE Central Office
8月	2日～5日	アジア・オセアニア性科学学会 (第12回) 「アジア・オセアニアにおける性の健康の普及推進」	くにびきメッセ (島根県立産業交流会館) (松江市)	<a href="http://www.l2aocs.jp/ja/">http://www.l2aocs.jp/ja/</a> (株)コンベンションリンクージ内 E-mail : l2aocs@c-linkage.co.jp
	4日・5日	日本女性心身医学会 (第41回) 「癒しと医療」	東京医科歯科大学 MD タワー2階 大講堂 他 (東京都文京区)	<a href="http://www.jspog.com/">http://www.jspog.com/</a> (株)コングレ E-mail : jspog41@congre.co.jp
	30日・31日 31日～2日	日本受精着床学会 (第30回) アジア太平洋生殖医学会 (第4回)	大阪国際会議場 (グランキューブ大阪) (大阪市)	<a href="http://www.jsfi.jp/index.html">http://www.jsfi.jp/index.html</a> 日本コンベンションサービス(株) E-mail : aspire-jsfi2012@convention.co.jp
9月	9日	日本生殖看護学会 (第10回) 「第三者の関わる生殖医療における看護師の役割」	国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 (小田原市)	<a href="http://jsin.umin.jp/">http://jsin.umin.jp/</a> 国際医療福祉大学看護学科 E-mail : jsfn10th@iuhw.ac.jp

\*2012年2月6日現在の情報です。詳細は各学会・学術集会事務局へお問い合わせください。

### 各地区で開催する勉強会の支援

教育推進委員会では、会員が主催する各地区の勉強会を支援したいと考えております。勉強会を企画されている代表者の方は、開催日時、開催場所、テーマ或いは内容、連絡先(住所、電話番号、FAX番号、メールアドレス)等を下記の連絡先までご連絡ください。よろしくお申し上げます。

【連絡先】 阿部正子 masakoA@nagano-nurs.ac.jp

長野県立看護大学 母性・助産看護学分野

〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂1694 TEL : 0265-81-5159

## 第4回関西地区勉強会報告

報告者：英ウイメンズクリニック

藤田 陽子

神戸大学医学部附属病院

山下 直美

神戸市立医療センター中央市民病院 小西真千子

平成23年12月17日（土）、英ウイメンズクリニックにて第4回関西地区勉強会を開催いたしました。寒い時期の開催にもかかわらず、看護師、助産師、臨床心理士、認定遺伝カウンセラーなど他職種にわたる54名の方にご参加いただきました。

今年度は、講師に岩崎美枝子先生（社団法人家庭養護促進協会・大阪事務所）をお迎えし、「親子になる～非血縁の親子関係を通して～」をテーマに、ご講演いただきました。まず、家庭養護促進協会の活動目的や活動内容等をご講演いただき、その活動からみえてきた、近年の多様化している親子関係についてお話いただき、理解を深めることができました。参加者ひとりひとりが、親とは、親子とはということをお話いただき、時間をになりました。また、養子縁組というかたちを通して、養親子関係の構築過程やその現状をご講演いただくと同時に、養親の不妊治療期間等もお話いただき、不妊の問題を抱えるご夫婦の選択のひとつとして養子縁組が存在することを、あらためて認識しました。さらに、参加者それぞれの立場で、どのような情報提供やサポートが必要かを、あらためて考える機会になりました。さらに、情報提供やサポートする際に、家庭養護促進協会など、適切な専門組織との連携の必要性も学ぶことができました。

参加者からは、「ARTを受けるカップルに手段をアドバイスするだけでなく、親になるということからアプローチできたらいいなと思いました。」「生殖医療の現場で働いているので、倫理観を再度考える良い時間になりました。生まれている子どもを一番に考えることが重要だと実感しました。」「産科病棟で働いていますが、不妊治療後妊娠し不育症や切迫流産等で入院される方が多く、妊娠が不妊治療の目標となってしまっているのではと感じる方も中にはおられます。出産し“子を育て親になる”想像が出来ていないまま親になるというのは、とても大変な事のように思います。今後そのような方と関わっていく上で、何かヒントになったように思えました。」といったご感想をいただき、今回の学びは、不妊治療の現場のみならず、周産期の現場や地域の育児支援の現場など、あらゆる場面で不妊の問題を抱えるカップルを支援する際に活かせるものと感じます。

## 理事会報告

### 第1回理事会

日時：平成23年10月28日（金）18時00分～20時15分

場所：聖路加看護大学2号館5階ミーティングルーム

出席：森前、村本、遠藤、上澤、清水、長岡、野澤、橋村

#### 【報告事項】

1. 実践開発委員会：不妊症看護認定看護師メーリングリストを作成すべくUMINのメールアドレスを取得。11/3開催のFine祭りにて、実践開発委員会から不妊症看護認定看護師によるブースを開設予定。
2. 広報委員会：No.31～No.33の内容・原稿締切日[2/6 (No.31)、6/4 (No.32)、10/5 (No.33)] 確認。
3. 編集委員会：本学会誌への英語論文の掲載を検討予定。査読委員の任期満了に伴い、次期委員に依頼中。

4. 将来検討委員会：平成24年度研究助成は2件、募集期間は例年通り4月～6月の予定。

5. 看保連対応ワーキンググループ：平成26年度に医療技術評価提案書を提出すべく準備中。

7. 第9回日本生殖看護学会学術集会：9/10に開催し参加者は263名。次回への申送内容、アンケート集計結果、収支決算等を報告。

#### 【審議事項】

1. 入会審査：2名の新規入会を承認。
2. 創立10周年記念事業：実行委員は理事全員が担当。趣意書および記念講演の演者を検討。
3. 平成23年度理事会開催日時の確認。
4. 役員選挙：今年度、第4期役員選挙を実施予定。選挙管理委員を推薦。

## もし不妊看護の現場で行き詰まったら… 日本生殖看護学会が相談にのります

実際に患者さんと関わっていく中で、「目の前にいるこの患者さんにどのように対応したらいいのだろうか?」「患者さんとゆっくり話ができる環境を作るためにはどうしたらいいのか?」など、臨床の現場ではシステムや看護観、倫理観などの中で問題やジレンマを感じるがあると思います。

実践開発委員会では、このような様々な問題に直面した時に直接ご相談をお受けし、よりよい不妊看護の方向性を一緒に考えていきたいと考えています。会員の皆様からのご相談をお待ちしています!

なお、お寄せいただいたご相談の中には、同じような悩みを持つ会員の皆様の参考にさせていただけるよう、相談者の同意を頂いた上、相談後1年以上経過した後、相談された方が特定できない形に加工し、『不妊看護に関するQ&A』として、ニュースレターやホームページに順次掲載いたします。どうぞご了承下さい。

### ◆実践開発委員会で扱う“相談・問題”とは…

1. 事例の相談
2. 生殖医療の知識的なことに関する相談
3. 不妊の方と向き合う時の看護職自身のジレンマに関する相談
4. 看護する場の改善(相談室開設など)にともなう相談 など

### ◆相談される場合は…

日本生殖看護学会のホームページ (<http://jsin.umin.jp>) にアクセスし、専用の「ご相談内容記入用紙」に相談内容を出来るだけ詳細にご記入後、送信してください。後ほど、お返事を送らせていただきます。

不妊症看護認定看護師  
リレー寄稿

No.  
11

### 「5年間の活動とこれからの課題」

山形県立河北病院 4期生 生亀 公子

はじめに、3.11の東日本大震災より間もなく一年となりますが、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。被災地に勤務する友人が、震災後ライフラインが断たれた中、3日間病院に缶詰め状態で対応に迫られたと聞き、私にもできることがあればと、電話相談の活動に参加させていただきました。あらためてCNネットワークの強さと大切さを実感いたしました。今後もこのような活動には積極的に参加させていただきたいと存じます。それでは、今回は、私の5年間の活動の現状とこれからの課題について話をさせていただきたいと思います。

当院は、病床数219床の総合病院で、体外受精の年間件数は100件程度であり、認定として、細々とではあります。地道に活動しております。院内の不妊相談では、共働きや三世帯同居率の高い山形県を反映して、仕事と治療の両立やスケジュール調整の相談が多く、また同居する家族との摩擦からくるストレスなどの相談などもあります。

院外活動では、最近、他施設のがん化学療法認定看護師から「プレストケア研修会」に参加のお誘いをいただき、乳がん患者の化学療法と性腺機能障害についてお話をする機会がありました。生命に関することが最優先される治療開始時期では、患者さんにとって性腺機能障害まで思いをめぐらせる余裕はなく、不安が生じるのは、治療が終了し通院回数が減って病院への足が遠のくところであるといわれています。そのため、誰に相談したらよいかわからず悩まれるようです。この研修会にあたり、実際に患者さんからもインタビューをさせていただきましたのですが、「性器内の乾燥のために歩くだけでも擦れて痛い。」とか、「夫の支えに大変感謝しており、今まで以上に良い関係であるが、性交痛経験後は、夜テレビを見ていて夫が隣に座ると怖いと感じる。」等のお話がありました。それらを踏まえて、性に関する支援は、患者さんのQOLに影響する重要な問題であることを理解した対応や、いつでも相談をうけるという姿勢、カップルのコミュニケーションに働きかける必要性などをお話いたしました。参加したスタッフは、性に関する相談に対応するのは難しいと感じていたようですが、支援の大切さを理解していただき、がん化学療法と性に関する看護の橋渡しはできたように思います。

このような機会は、私にとって新たな分野への開拓であり、とても勉強になりました。これからも、他分野の認定看護師との連携により不妊看護認定看護師としての活動を拡大していきたいと思っております。

今回は、同じく4期生で熊本大学の本田万里子さんをお願いいたします。

## 平成24～27年度 新理事および監事選挙のお知らせ

今年度は、平成24～27年の新理事および監事を決定する選挙年となります。選挙に向けて選挙管理委員長に山崎圭子氏、選挙管理委員に永野妙子氏・大野雅代氏が選出されました。会員の皆様には5月頃に投票用紙が郵送されますのでご協力のほどよろしく申し上げます。

### 事務局からのお知らせ

1. 日本生殖看護学会へのお問い合わせ、会員に伝えたい情報、ニュースレターに関するご希望・ご意見などがありましたら、FAX：03-6226-6380もしくはE-mail：jsin@slcn.ac.jpまで、お気軽にご連絡ください。
2. ニュースレターは郵送ではないので転送されません。転居・転職された方、あるいは今春転居・転職を予定されている方は必ず事務局までご連絡願います。
3. お知り合いの方をぜひ日本生殖看護学会へお誘いください。入会希望の方がいらっしゃいましたら、入会案内をお送りしますので、お名前、ご連絡先をお知らせください。
4. 日本生殖看護学会ホームページ (<http://jsin.umin.jp>) を適宜更新しています。ぜひ新しい情報をご活用ください。

### 重要 会費の納入をお願いします

平成23年度会費（平成23年9月1日～平成24年8月31日の諸活動に伴う会費です）の納入をお願いいたします。

口座番号：00170-2-333413 加入者名：日本生殖看護学会 年会費：6,000円

\*ニュースレターに「払込取扱票」を同封してあります。過年度分が未納の方には今年度分との合計額を印字しておりますので、払込取扱票に表示されている金額の納入をお願いいたします。入金確認の時間差もあることから、表示された金額が払込事実と合わない場合には事務局までご連絡ください。

#### 編集後記

昨年3月11日未曾有の大被害をもたらした東日本震災及び福島原発事故から、まもなく1年を迎えようとしています。そして、今年の冬は日本海側及び東北地方を中心に例年にない大雪で、様々な被害を被っていることが連日報道されていました。被災地の皆様におかれましては、大切なものを失った悲しみをまだ回復されていない中、重ねての痛手とお察しいたします。連日最低気温を更新している東京ですが、いくら寒くても被害を被っている方々に比べたら…。無駄な電気を消したり、使わない時は電気製品のコンセントを抜く習慣も身につけてきました。毎朝見ているテレビで流れる「あなたにしかできないこと」という音楽を気に入って聴いています。一人一人ができることって決して大きくないかもしれないけれど、今できることをしていきたいですね。

今年もインフルエンザが流行り出し、学級閉鎖のニュースも流れています。皆様、体調崩されませんよう、防寒対策と合わせてインフルエンザ対策もお忘れなく。

(広報委員：野澤美江子、矢野恵子)

#### 日本生殖看護学会

Japanese Society of Fertility Nursing : JSFN

〒104-0044 東京都中央区明石町10-1

聖路加看護大学内

TEL & FAX 03-6226-6380

E-mail jsin@slcn.ac.jp

ホームページ <http://jsin.umin.jp/>